第４回 防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略専門会議
議事録

■開催日時・場所

平成 27 年 10 月 16 日（金）14 時 00 分～

防府市役所４号館３階　第１会議室

■議事

１．　パブリックコメントの実施結果について

２．「防府市人口ビジョン（最終案）」について

３．「防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略（最終案）」について

４．　今後の総合戦略の推進体制について

■配付資料

	資料名	番号
1.	防府市人口ビジョン（最終案）	【資料１】
2.	防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略（最終案）	【資料２】
3.	「防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略」推進体制	【資料３】

■会議風景

■出席者名簿　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　敬称略・順不同

	分野	所属団体・役職	名前	出欠
委員	教育	山口大学（大学院技術経営研究科　技術経営専攻）教授	【会長】 稲葉　和也	出席
		山口県立大学（国際文化学部　国際文化学科）准教授	【副会長】 進藤　優子	出席
	産業	防府商工会議所	喜多村　誠 （代理）尾中　勝	代理 出席
		防府市農業委員会　会長	藤井　伸昌	出席
		一般社団法人防府市観光協会　理事	鈴木　宏明	出席
		協和発酵バイオ株式会社　山口事業所長	古谷　將	欠席
		西日本旅客鉄道株式会社　防府駅長	岡田　裕哉	欠席
	行政	防府公共職業安定所　所長	大野　正幸	出席
		山口県民局　局長	金子　大	出席
	教育	山口短期大学（児童教育学科）准教授	手島　史子	出席
		防府商工高校　教諭	黒川　康生	出席
	金融	山口銀行　防府支店長	田辺　一政	出席
		東山口信用金庫　本店長	三田　浩士	出席
	労働	連合山口県央地域協議会　委員	山根　浩二	出席
	言論	山口放送株式会社　ラジオ局長	黒瀬　哲哉	出席
	住民	特定非営利活動法人　コミュニティ友志会　代表	松永　朋子	出席
		防府市ＰＴＡ連合会母親委員会	細野　美幸	出席
		防府市自治会連合会	石竹　和歌子	欠席
事務局		総合政策部　部長	平生　光雄	
		総合政策部　部次長	伊豆　利裕	
		総合政策部　部次長	原田　みゆき	
		総合政策部総合政策課　課長	白井　智浩	
		総合政策部総合政策課地域創生総合戦略室　室長	桑原　明哲	
		総合政策部総合政策課地域創生総合戦略室　副主幹	持溝　秀昭	
		総合政策部総合政策課企画係　主任	田中　利明	
		総合政策部総合政策課企画係　主事	飯分　徹	

■議事録

１．開　会

（事務局より開会の宣言と資料の確認）

２．会長あいさつ

会　　　長｜　防府市人口ビジョン及び総合戦略は 10 月末までに策定することになっており、本日が最後の審議になるのでよろしくお願いする。

　一番大事なことは、ここで掲げた目標をいかに達成するか。今後、改訂もしていく。

　一昔前は、いかに正確な計画を作成するかを重要視していたが、今は、世の中の状況に即して対応していくことが大切である。最初作ったものを変更することがあって当たり前だと考えている。

　本日ここにおられる方は、総合戦略を推進するキーパーソンになるので、防府市の未来のために、この総合戦略を深化していき、今後のためにご協力いただければと思う。

３．議事

（会長より会議の公開について説明）

会　　　長｜　パブリックコメントの実施結果について事務局から説明をお願いする。

（事務局よりパブリックコメントの実施結果について説明）

会　　　長｜　パブリックコメントの実施結果については、コメントが無かったと報告があった。

　それでは次第にある、防府市人口ビジョン最終案について、事務局から説明をお願いする。

（事務局より防府市人口ビジョン最終案について説明）

会　　　長｜　只今のご説明について質問をお願いする。

　（質問なし）

　次第にある、防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略最終案について事務局から説明をお願いする。

（事務局より防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略最終案について説明）

会　　　長｜　只今総合戦略最終案について説明があったが、ご質問等あればお願いする。

Ａ　委　員　ｐ23 の取組み内容は、これ以上具体的なことは今後専門会議の中で進めていく方向なのか。

事　務　局　すぐに予算編成も始まる。この会議だけでなく、今後それぞれの課を中心としてそれぞれの事業をやっていく。そこで連携の相手方、主体協力していただく方を増やしていきながら、国の言い方で言えば深化、深堀をして、良いものにしていく。是非ご協力していただきたい。また、掲載している項目以外があれば追加で改訂する予定。

Ａ　委　員　KPI の項目を何にするかというのは、この会議で絞り込むということで良いか。

事　務　局　全体を進めるうえで各事業があり、KPI は各事業を測定していく指標となる。国も総合戦略にはベンチマークを設定して、毎年検証しながら進めていくとしている。また、新たな KPI が必要であれば、KPI の追加も当然考える。まずは、農業の関係で他に必要なものがあれば設定していきたい。

Ａ　委　員　農業の担い手の高齢化が深刻化している。国もここ 10 年ぐらいで農地の８割を担い手に集約しようとしているが、現実にはなかなか難しい。その理由の一つに、小規模農地の問題があり、作業効率が悪い農地は引き受け手がいない。これを解決するためにもインフラの整備をお願いしたい。そのためには KPI の一つに農地の集積割合を設定するのはどうだろうか。

事　務　局　総合計画の指標で、農地利用集積割合面積があるため、これを KPI の１つとすることで調整したい。

会　　　長　他にご質問等はないか。
前回はもっとメリハリをつけるとか、はっきり打ち出した方が良いとか、さまざまな議論があったが、前回発言された方いかがか。

Ｂ　委　員　カラー、写真、レイアウトが工夫されてわかりやすくなったと思う。
気になったのは先程の前の段階で、1 カ月のパブリックコメントが 1 件もなかったということ。会長が言われたように、この総合戦略をどう達成していくのかが本来の趣旨。市民を巻き込んで、気分を盛り上げていくことが大事になってくる。10 月末に国に提出され、その後もあると思うが、市民を巻き込んで、色々な意見が吸いあがるようなことを市が仕掛けていくのが大事だと思う。そのあたりを考えていただきたい。

事　務　局　できるだけ市民に伝えたい。まず人口ビジョンというものがあり、総合戦略をやっていくことを、しっかり情報発信できていない状況なので、マスコミへの投げ込みや広報への掲載等を検討していきたい。しっかりした PR をして、お知恵をいただいた事業を周知していきたい。

会　　長｜会長ではなく委員としての発言だが、パブリックコメントがないのはまずいと思う。あって当然というものがあるので、そこは努力してほしい。

Ｃ　委　員｜観光庁の観光資源を活用した観光地魅力創造事業という観光課の事業の一覧があって、具体的な事業や事業予算等が載っている。これを見ると、観光がどのように進むのかというのが見え、今からどんどん具体的に進むということがわかる。これが多くの紙面で関係者に分かりやすく情報が伝わると、当事者意識を持って市民もまちづくりに参加できるのかなと思う。一部の関係者しか進むべき方向性、具体的な施策や事業がわかっていないのではなく、できるだけたくさんの方で情報を共有することが大事。最近では情報のデリバリーという言葉が重要視されている。これまでは、一方的に情報を出すばかりであったが、広聴や共有をしていけたらよい。人材についても、さまざまな関係機関、他の地域の大学などから協力してやりませんかというオファーがきている。これらを具体的に進めていけるよう総合政策課が全体をコントロールしていってほしい。

事　務　局｜このような場でいただいた意見をしっかり各課におろしていく。大変ありがたい話。

Ｃ　委　員｜KPI に幸せますピンバッチを入れてはどうか。ブランド化を推進するということで、市民全員がこれを付けられるようになったら良い。委員の方々の会社や事業所等でピンバッチを採用して、付けようという人は是非つけていただければ。

事　務　局｜ピンバッチの配布数等を教えていただければ、KPI に盛り込むことも可能と考える。市以外がやることも KPI として盛り込んでいきたい。会議後、調整したい。

Ｄ　委　員｜ピンバッチは格好いいから付けているのではなく、ブランドの浸透が目的なので、市にもご協力いただき、さまざまなところで発表してきた。昨年、おもてなしということの中で、色々な講座を設け、市外・県外から来てくれたお客様に対して、おもてなしの心を込めて幸せますということを、アピールしてきた。お客様を迎える仕事をしている人については是非バッジを付けてもらいたい。

副　会　長｜P26(1)-1 とＰ28(2)-1 が若干重複している。一緒にした方が見やすいのではないか。地元学生の就職と県外大学生等の就職で、県外を対象にしているものと市外を対象にしているもので、その取組内容も違っていて、かつ KPI の違いもあるが、似ている気がする。

事　務　局｜これについては、このままいかせていただきたい。県内大学を前に持ってきたのは、山口大学のＣＯＣプラスとの連携ということで、今、山口大学が国の認定を受け、その中に防府市も参加するようになっている。それもあり、地元学生と県外大学生という形で整理した。防府市への定着促進と防府市への移住促進という分け方でご理解いただきたい。

Ｅ　委　員｜　基本目標 4 が定着と移住となっているので、やはり市内の定着と県外からの移住は分けて記載された方がわかりやすいと思う。このままでよいと思う。

Ｆ　委　員｜　今回が最終ということなので、先ほど発言があったように、これをいかに市民、もしくは市外に出ているが防府市出身者とか防府のまちをもっと良くしていきたいという人達に伝え、そういった方々をいかに巻き込むか、意見をききながら、これをどのようにしていくかということが、次からのポイントになってくると思う。

Ｇ　委　員｜　難しいとは思うが、産科医の確保や小児救急医療体制の KPI は設定できないだろうか。

　また、P18、スクールソーシャルワーカーは絶対数が少ないときいている。こちらの方の KPI は設定できないだろうか。

事　務　局｜　産科医の確保については、分娩手当という形で単独でも支援をしている。県内、県外を含め、産科医の取り合いというのが現状であり、現時点で KPI の設定は難しい。

　小児科・救急体制については病院側とも調整している。県立医療センターの力にすがるところが大きいので、KPI の設定を見送った。

　スクールソーシャルワーカーは KPI については検討させてもらって、可能であれば掲載していくということで了承いただければと思う。

　KPI については、途中でも追加できるので、減らすのはおかしいが、どんどん設定しながら内容を濃いものにしていければと思う。

Ｈ　委　員｜　P16、男性の家事育児参加促進のための啓発講座等の参加人数について、男性が育児に参加している度合いをこれで図るということだと思うが、育児休暇の取得等企業等の設定はできないだろうか。

事　務　局｜　現時点での設定は難しいと考えている。総合戦略を進めていく中で設定できればと考えている。

Ｉ　委　員｜　最終回なので、意見は出し尽くしたかなと。前回からの変更点として人気ランキングが 50 位内となった。そこが大きな所で、この内容をしっかりと達成していってもらえたらと思う。

会　　　長｜　先に進みたいと思う。

　次第にある４つ目の、今後の総合戦略の推進体制について事務局から説明をお願いする。

（事務局より今後の総合戦略の推進体制について説明）

事　務　局｜推進体制について、質問があればお願いする。

Ｂ　委　員｜推進体制の専門会議について、会については今回が最終回で、同じメンバーで来年の７月頃再び集るのか。

事　務　局｜この専門会議は、総合戦略を策定するための委員会から、総合戦略を推進するための委員会として衣替えをしていきたいと考えている。委員については、団体等へ改めてお願いするが、可能であれば今のメンバーには参画していただきたい。

Ｃ　委　員｜確認になるが、防府市の最上位計画が第四次総合計画であり、これの人口減少という側面から捉えたものがまち・ひと・しごと創生総合戦略であるということでよいか。第四次総合計画と整合性がとれていて、そのもとに各課が事業立てをしているということで間違いないか。

事　務　局｜その通り。市の最上位計画が第四次総合計画であり、その中で人口減少対策及び地域創生に特化したものが総合戦略となる。自治法の縛りはなくなったが、本市では自治基本条例に総合計画の策定が義務付けられている。

Ｊ　委　員｜KPI の数値は上方修正だけでなく、下方修正もあり得るのか。

事　務　局｜下方修正もあり得るが、そういったことにならないよう、見直しを行っていく。毎年検証できる数値、代替で行う数値、5 年に 1 回しかとらない数値もあるが、市民の意向を毎年把握して示していくことはできると思う。

Ｄ　委　員｜今、気にしているところが 3 点ある。1 つめは障害者の雇用と就労支援、もっと企業として取り組みをする必要がある。我が社も来週、障害者支援の表彰を受けるが、20 年前から進めてきてやっとというレベルだと思う。まだまだだと感じている。

2 つめは認知症サポーター、数字が示してあるがいかがなものか。サポーターの教育を各市で行っており、我が社では今年に入って既に 3000 人、わずかな期間でも 3000 人に達しているので、トータル人数は少ないと思う。今後、変更を検討してもらいたい。

3 つめは育休の問題。これは一番進んでいない。現実として難しい問題になると思う。女性は進んでいるが、男性はほとんどゼロ。先日新聞に取り組んでいる企業に補助金があるとあったが、これは良いと思った。是非企業に活用してもらいたい。この 3 点については積極的に大きな目標を立ててやるべきだと思う。

事　務　局｜言われる通りだと思う。育休や女性の再就職支援について、総合戦略の中で補助金を検討している。基本的には労働局が支援をしているが、市として連携して PR していきたいと思っているのでなんとか新しい事業としてつくっていきたい。KPI については、事業化を含めた形で上方修正の方向で理解していただきたい。

会　　長｜　認知症サポーター数 6000 人は中途半端ではないか。1 万人とはならないのか。

事　務　局｜　認知症サポーターを教育している人達と検討して、可能であれば少しでも上げていきたい。

Ｂ　委　員｜　防府市外から参加しているが、外から防府市を見たときに、特徴であるのは港が山口県の中心にあることだと思う。その有効活用が大事だと思う。福祉等さまざまなことにつながることだと思う。そのあたりを全面に押し出して、防府市の特徴を持たせながら基礎的な部分を充実させるのが大事だと思う。

会　　長｜　委員としての意見だが、潮彩市場を強調するのならばもう 2 ページ加える。ページを削るより、増やすという手もあるのではないかと思う。

　意見もだいたい出されたと思うので、以上をもって協議を終了する。

　今回の会議の議論については最終案に反映をさせて、10 月末に国に提出という運びになる。この専門会議は約半年間協議を重ねてきて、今回をもって終了となる。委員の皆様には活発な意見をいただいた。ここまでまとめていただき、防府は頑張っていると思う。今後も努力をして戦略を成功させていきたい。

事　務　局｜　本日は長時間にわたりご協議いただき感謝申し上げる。会長、副会長、各委員の皆様方には、半年間でのとりまとめというタイトなスケジュールにもかかわらず、ご協力を賜り、おかげで目標であった今月末までの国への提出ができる。今後は、総合戦略を実行に移し、その成果を検証していく必要がある。その折には、また皆様方のお力添えをいただければと考えているのでよろしくお願いする。これまでの皆様のご協力に感謝し第 4 回防府市まち・ひと・しごと創生総合戦略専門会議を終了する。

閉会